

## ～ 「ながさきけん希望大使」から伝えたいこと～

私はこれまで、他の職員と同じように業務を普通にこなせていました。ところが、令和元年10月頃から、徐々に、仕事をどこまでやったか忘れて、混乱して作業が進められなくなる事もありました。

11月に上司から、病院での受診を勧められ、長崎大学病院で検査を受け、若年性認知症と診断されました。その後、会社を通じて、高齢・障害・求職者雇用支援機構と、すこやか長寿財団による支援を受けることができました。

また、社内ではサポート役の職員がおり、毎朝始業時に今日の仕事の打合せを行い、終業時に進捗状況を確認しています。さらに、会社で録音した会話記録を、帰宅後、家で私の娘がICレコーダーからノートに書き写してくれ、それを翌日の打合せに生かしています。

このように、現在私は周りの皆さんのお陰で仕事を続けられており、感謝の気持ちでいっぱいです。

いつまで仕事を続けられるか分かりませんが、できるだけ長く頑張りたいと思います。

ながさきけん希望大使  
江濱真司様

